Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-26

2023年度博物館実習およびサテライト・ミュージアム実施報告

菊地, 真

(Citation)
海事博物館研究年報,51:47-52

(Issue Date)
2024-03-31

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/0100490225

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100490225

2023年度博物館実習およびサテライト・ミュージアム実施報告

海事博物館専門員　菊　地　　真

1．学芸員資格のための授業

a）展示見学

2023年度も学芸員資格関連授業の一環として海事博物館の見学を実施した。文学部で後期月曜日に開講の「博物館概論」（担当、橋本寛子）、「博物館教育論」（担当、坂江渉）、「博物館資料保存論」（担当、菊地）の３授業合同の展示見学会を11月27日（月）に開催した。受講生は各授業時間にあわせて博物館に集合し見学する形とした。見学者は合計40名であった。

企画展と常設展をあわせて見学し、授業内容に合わせていくつかの資料に焦点をあてて紹介している。今年の企画展は「船のあゆみ」と題して、おもに現代の多種多様な商船を船舶模型と写真パネルで紹介している。船は基本的な巨大な構造物であるが、ことに近年の船は巨大化が著しく、博物館の室内に収まる大きさではない。そのため収集資料として写真や模型といった２次資料も重要になるわけだが、その事情について説明を加えた。展示資料としてもう一つ特徴的なのが、客船のサービスとして知られる花毛布である。花毛布は寝具の毛布を桜など各種のモチーフで折り紙のように折り畳む客室サービスである。就寝時に毛布を使うと造形は崩れてしまう。すなわち一種の無形文化遺産だと言える。今回は４種類ほど再現して展示しているため、花毛布の造形美を実際に間近に見て頂いた。

また、見学時にはボランティアの特別専門員の方に現在の海運や、展示している船の特徴などについて解説していただいた。当館ボランティアは海運関連の仕事をされていた方が多いため、ご自分の経験や船の知識に裏付けられたお話は学生たちにも分かりやすく響いていたようであった。学生たちの感想を一部抜粋し提示する。

「現在の環境保全へのニーズのために、昔から船を動かすのに不可欠な動力や風を改めて活用しようという動きがよくわかり、面白いと思った。また、船そのものの発展だけでなく、関連する資料の展示も通して発展とともに受け継がれてきた文化まで幅広く学びを得ることができた。」

「船について乗る機会も少ないしあまり知らなかったが、基本的なことから丁寧に説明があってわかりやすかった。」

「あまり船のことを知らなかったが、近代の船の形態、船の文化、進化していく船のシステムなど深く知れて良かった。」

「航海士の階級が細かくあることも初めて知ったし、客船の記念品や花毛布、メニューなどからは船旅の様子が想像できて良い展覧会だった。」

「船にまつわる品々のコーナーが特に印象深く、花毛布やタオルアニマルなどはデザインが可愛らしいと感じました。」

「なんとなくしか持っていなかった自分の中の船舶のイメージが、特色のある船がいくつも紹介されていることでガラリと変わりました。最新の科学は海運にも生かされていることがよく分かりました。」

「神戸商船大学時代の卒業生の方の説明もわかりやすく、現在に至るまでの船の大型化・専用船化や文化について学ぶことができて、船についてより一層興味を惹かれました。」

菊地が担当する博物館資料保存論では、MLAKにおける資料保存の連携を講義しており、この一環で学内開催の他の展示も見学をしている。今年度は、「誓子と旅（３）―島を詠む―」（誓子・波津女俳句俳諧文庫、山口誓子記念館）と「学生寮の昔と今―神戸大学史にみる寮文化の軌跡―」（大学文書史料室）、「1933―社会科学系図書館誕生90周年―」（大学附属図書館）の企画展見学を行った。

山口誓子は俳句大会など仕事の都合で日本各地を訪れている。妻の波津女と旅することも多かった。今回は淡路島・隠岐・沖縄・佐渡島・小豆島といった離島を選び、訪問先で詠んだ誓子の俳句や現地に立てられている句碑などとあわせて紹介している。いわゆる文学館の資料であり、紙資料の取り扱いや、文学をどう展示するかといった観点から見学をしてもらっている。

大学文書史料室は神戸大学の寮をテーマとした展示で

ある。戦前より全国から学生が集まった神戸大学において、大学設置の寮は必須であり、寮で暮らす学生同士の交流も盛んであった。現在は神大の寮は集約化が進んでいるが、学生にとって安価な寮のニーズは高いと言える。ちなみに近年は複数人で相部屋というかつてのスタイルは無くなり、基本的に個室となっているようである。

大学附属図書館は社会科学系図書館が現在地に竣工してから90年の節目であり、これまでの歩みを振り返る展示であった。社会科学系図書館の建物は主要な部分が登録有形文化財となっており、館内の装飾やエントランスの壁画などが有名である。

図１　「誓子と旅」展示・見学風景

図２　「学生寮の昔と今」展示風景

図３　社会科学系図書館の企画展風景と図書館内の様子

b）博物館実習Ｂ：実務実習

海事博物館では2020年度から神戸大学が行っている博物館実習のうち、博物館実習Ｂ（実務実習）と博物館実習Ｃ（館園実習）について受け入れ協力している。

博物館実習Ｂは、理学部で行っている実習のうち２日間を海事博物館で実施し、菊地が分担協力した。実習は３月１日（金）と４日（月）の２日間で行った。

実務実習では収蔵庫の資料整理を行い、古典籍などの取り扱い方法の基礎を学んでもらった。海事博物館の収蔵庫を見学して資料の保管状況を学んだ後、資料を作業場所まで搬出し、資料の題名や法量などを調書にとって確認をすると共に中性紙の保存袋へ再収納を行った。また過去の企画展の展示パネルの整理も行った。

ほかに作業の合間をみて企画展と進徳丸メモリアルについて見学を行った。理学部は理工系の館に興味関心を持つ学生が多いため、海事博物館で展示されている模型や器機類を見学することで海洋関係の多様な資料の取り扱いについて理解が深まるよう留意した。

C）博物館実習Ｃ：館園実習

今年度は文学部・人文学研究科から２名、他大学から１名である。当初は２名を予定していたが、新型コロナウイルスに感染した学生が予定していた館で実習を受けることが不可能になったため、急遽追加で受け入れることとした。

期間は９月20日（水）～９月28日（木）の間の計１週間とした。実習内容は昨年度にならい、学内機関等３か所に協力頂き、博物館の日常業務を一通り経験できるようにした。

表　2023年度海事博物館：博物館実習Ｃ日程

１日目	海事博物館	施設、活動概要の説明 展示解説の作成準備
２日目	海事博物館	収蔵資料の整理作業 展示解説の作成
３日目	海事博物館	収蔵資料の整理作業 展示解説の作成
４日目	文学部	被災資料の修復作業
５日目	文学部	被災資料の修復作業
６日目	大学文書史料室	収蔵資料の受け入れ作業
７日目	山口誓子記念館	記念館開・閉館作業　施設・収蔵庫の見学と資料取扱い
	大学文書史料室	収蔵資料の受け入れ作業

海事博物館では最近収蔵した資料の整理、目録作成を実際に行った。計測、スケッチなどを行って目録の調書を作成し、資料の写真撮影も行った。扱った資料は進水式用の斧や酒瓶、陶器製客船模型などである。ほかに資料調査の体験として展示中の観測機器から任意で１点を選び、資料解説のパネルの案文を作成した。

山口誓子記念館は山口誓子の旧宅をほぼ再現した展示施設である。いわゆる日本家屋であり、この記念館の開閉作業と誓子・波津女俳句俳諧文庫における文学資料の展示や保存について、職員の米田恵子氏のご指導により学んだ。

大学文書史料室はアーカイブズとして大学各部署から送られてきた書類を整理保管している。例年通り戦後の事務書類やファイルのクリーニング、文書のホチキスなどの取り換えや修復作業に従事し、室長補佐の野邑理栄

図４　実習Ｃの様子（資料整理、大学文書の受入れ作業）

子氏に指導をお願いした。

また地域連携推進室の松下正和氏に指導頂き、被災歴史資料の救出作業について学んだ。これは本学ならではプログラムである。近年、毎年起こる水害や地震などの自然災害により指定文化財や個人宅の諸資料が被災する例が多い。本学に事務局を置く史料ネットは、古文書といった歴史資料の水損からの救出・修復技術の蓄積がある。松下氏は史料レスキューに詳しく、水損資料の吸水乾燥方法、史料の修復記録・洗浄・風乾・漉嵌め（すきばめ）作業、真空凍結乾燥器による乾燥作業といった一連の作業を実習した。

２．サテライト・ミュージアムの活動

ａ）巡回展

MLAK 連携の事業として例年、サテライト・ミュージアムを実施している。2023年度に行われた展示などは以下のとおりである。

誓子・波津女俳句俳諧文庫と山口誓子記念館は、特別展「誓子と旅（３）―島を詠む―」を９月11日（月）～10月20日（金）に開催した。大学文書史料室は企画展「学生寮の昔と今―神戸大学史にみる寮文化の軌跡―」を10月26日（木）～11月17日（金）に開催し、巡回展を３回行った。海事博物館会場が12月４日（月）～12月15日（金）、東京六甲クラブ会場が2024年１月９日（火）～１月31日（水）、社会科学系図書館会場が２月17日（土）～３月25日（月）である。また神戸大学付属図書館も、資料展「1933―社会科学系図書館誕生90周年―」を10月13日（金）～12月20日（水）に実施した。

海事博物館では、巡回展を12月22日（金）～2024年３月22日（金）に百年記念館で開催した。百年記念館展示ホールのエントランスを借用し、パネルと簡易展示ケースにより資料を展示している。今回は企画展と同種の資料を展示するようにした。無線信号機、客船「飛鳥」、「CRYSTAL HAMONY」や海外クルーズ船の模型、進水式絵葉書などである。展示スペースが限られるため花毛布の展示は見送ったが、代わりにタオルアニマルをケース内に展示した。今後は引き続き社会科学系図書館にて４月に巡回展を実施する予定である。

また社会科学系図書館では毎年１月17日にあわせ、大学附属図書館にある震災文庫を紹介し、阪神・淡路大震災について考える資料展を開催している。今年度も2024年１月に資料展「阪神・淡路大震災25年　あのときとこれから」（2020年展示のリバイバル）を実施した。

ｂ）図書テーマ展示との連携およびその他の展示

今年度も人文科学図書館および海事科学分館において、展示期間に併せて関連する図書紹介を行った。この企画は附属図書館職員の方々に全面的にご協力を頂いている。

海事科学分館では2023年10月～12月に関連図書展示として、船の科学、海運関係、あるいは氷川丸など有名な客船の図書を30冊程度紹介した。人文科学図書館では、９月～10月には山口誓子展に合わせ、テーマ展示「島を読み、旅する」と題し、山口誓子の句集のほか、佐渡や沖縄といった島々の社会・文化や歴史の本を展示した。2024年１月からは「近代日本　船のあゆみ」の巡回展と、阪神・淡路大震災、そして2024年１月に能登半島地震が発生したことも踏まえ、企画展図録ならびに災害と文化遺産に関していくつかの図書を展示し、災害関係の文献リストを提供した。

最後になったが、本年度もご協力頂いた関係各位に心から御礼申し上げたい。

図５　リーフレット（左から山口誓子、大学附属図書館、大学文書史料室、サテライトミュージアム）

図６　巡回展のようす（上段・大学文書史料室の海事巡回展、中段・大学文書史料室の附属図書館巡回展、下段・海事博物館の巡回展百年記念館会場）

図７　図書テーマ展示（上は海事科学分館の海事博物館企画展関係の展示、下は人文科学図書館の山口誓子関係の展示）

協力：一般社団法人海洋会、神戸大学附属図書館、
大学文書史料室、山口誓子記念館、
誓子・波津女俳句俳諧文庫、
野邑理栄子、松下正和、米田恵子、
田中史恵、井口琢人　　（敬称略）